

産経新聞 2006年(平成18年)1月22日

## マイトレジャー 追憶の一品

### 政界でも「捕手の道」貫く

東京都港区の事務所に飾られている国会議員ベストナインのトロフィー。  
上に乗っているのは福岡ソフトバンクホークスの王貞治監督からのサインボール

政治家時代には見せなかった気さくな表情で差し出したのが野球のトロフィーだった。

「昔は僕が野球をやっていたなどと信じる人は少なかったけれど選挙戦で好きなスポーツが野球で、東大ではキャッチャーでならしたと公言してきたこともあってだいぶ浸透してきました」。

“証拠”である突き指の手を差し出しながら、そう笑顔で話す。

野球にまつわるエピソードには事欠かない。東大を卒業して大蔵省に入省し、三十歳で藤沢税務署長になった際、当時蔵相だった田中角栄氏に「実務は署員に任せればいい。署長の任務は皆にいかにして活力ある働きをしてもらおうか」と諭された。

そこで取り組んだのが署内でのスポーツの奨励だ。東大時代にならし、とりわけ得意だった野球の振興に努め、着任早々から署員の心をガッチリつかんだ。

宝物のトロフィーには「ベストナイン」と「国会議員親睦野球大会、1991・6・6 東京ドーム」という文字が刻まれている。

「小泉政権になってからはほとんど聞かれませんが、昔は与野党関係なく国会議員を東西に分けて野球大会をしたんですよ。元プロ野球選手のいた公明党などは強かったし、逆に勉強ばかりしていたせい共産党は選手層が薄かった」とか。この大会で捕手として活躍し、優秀選手に選ばれたこともある。

政治家としても捕手の役割を貫いた。

平成十六年五月、民主党代表を務めていた菅直人氏が年金未納問題で辞任、いったんは小沢一郎氏が後任代表に内定したがやはり未納問題が発覚し辞退。お鉢が回ってきた。「私は生涯キャッチャーに徹する覚悟。党内外のまとめ役になります」と固辞。岡田克也代表(当時)のもとで幹事長に就任した。

昨年の総選挙で落選、引退し、すべての役職を降りたが、新設された民主党のシンクタンク理事だけは「是非に」と請われて就任した。さらに議員時代から続けている「近現代歴史研究会」だけはこれからも継続する。「すべては歴史に学ぶべし」。一線こそ退いたが、政界を知り尽くした名捕手の出番はなくなりそうにない。